



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「ねんねこ」

今年の北米ホーリネス教団夏季修養会は一言、圧巻であった。賛美にしろ、聖書講義にしろ、聖会にしろ、近年これほどグツと心に迫ってきた修養会はないと言った良いほどの盛り上がりであった。特に関真士先生の「神や親と子との関係」は皆が泣いたし、村上宣道先生の夜の聖会は、さすが人をして、聖書を語らせれば日本一と言わせるほどに会衆皆を唸らせるメッセージであった。

山形にいた時のことだ。村上先生は小学校五年生頃に反抗期に入った。牧師の子と呼ばれ、良い子でいなくてはいけないことに辟易し、中学校、高校と、親に文句を言い、盾ついてきた。そんな彼が進化論を学んだ。教科書には人間は単細胞から進化して現在に至ると書いてある。親はこんなことも知らないで創造論を語っていたのかと思うと、ますます反抗心を燃やした。教会に来ていた友人にも「神様なんかいない」などと言うほどであったので、「牧師の子がそう言うのだったら、もうオラたちも神様信じねえ」と言って教会に来なくなった。そんなある冬の寒い日、彼は家を出た。彼は両親がどんなふうにも彼を心配しているのかチャレンジしてみたくなったのだ。彼は物陰からじつと家を伺っていた。夜になり、真夜中になっても母は寒い中、ねんねこを羽織って、足を踏み鳴らしながら、玄関先で彼の帰ってくるのを今か今かと待っていた。母は朝の五時半までズーと立っていた。朝食の用意なのだろう、家に入った。その時に彼はこの時とばかり家の裏からこっそり入ったのだ。するとそこでばったりと母と顔を合わせてしまった。一瞬、彼は叱られるのではないかと思ったのだが、母はこう言った。「お前にこんなふう辛い思いをさせてごめんね」と。寒さに震える息子に母は自分の着ていたねんねこをかぶせ、しっかりと抱いてくれた。そして二人はおいおい泣いた。彼が親から見捨てられてはいなかったと初めて確認できた瞬間だった。その時、彼の信仰が復活したのだ。

これはまさにルカ福音書にある放蕩息子の話である。息子が飢餓のゆえに帰ってきた理由は、「本心に立ち返った」(十五・17)からであった。本心とは神の愛に立ち返るとのことである。村上先生は母の愛を通して神の愛に目覚め、信仰の復活ができたのである。人は愛に触れて初めて心を開くからである。神は私たちにねんねこを着せ、ご自身の愛のぬくもりを感じて欲しいと心から願っている。私たちの帰るべき所は神のふところだからである。そのために神は今もじつとして、あなたの帰るのを今か今かと待っておられるのである。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

